

まえがき

本書は、日本貿易振興会アジア経済研究所が実施した平成11年度「世界のなかの 아프리카-国際比較研究のための視座-」研究会と、12年度「アフリカ比較研究の視座」研究会（いずれも平野克己主査）が、2年にわたる討議と作業を経て到達した成果である。

研究会の名称が示すとおり、われわれはアフリカを世界的な視野のなかに置いて、アフリカについての知を相対化するという仕事に取り組んできた。それによってアフリカ研究が、アジアをはじめとするほかの地域研究の成果や、経済学や政治学をはじめとするさまざまな分野の理論研究の成果と通交しあえるようになる、そのような交流通路を切り開こうと試みた。その苦しく困難な試みの跡を記したのが本書である。目次にもっとも、その内容は多様である。それはアフリカ研究に携わっている学の多様さを示していると同時に、アフリカについての知がいかに広範に及んでいるかを教えてくれる。ここにある広範と多様は、すべて比較研究の題材となった。

比較研究は異質なものの並列であってはならない。その結論は思い込みであってはならない。学の前線とアフリカ研究を繋げていくプロフェッショナルリズムの追求でなければならない。そのような自戒を胸に作られた本書は、はたしてアフリカ研究に新しい視座を提供できたであろうか。その判断は当然読者に委ねられるが、しかし、アフリカ学は他学からなにを潜在的に学びたがっているのか、アフリカ学は他学に伝えたいどのようなメッセージを内包しているのかについては、幾許かを明らかにできたと自負している。研究会に参加してくれた委員各位に、改めて感謝する。